

24. アレルギー性鼻炎患者における黄色ブドウ球菌エンテロトキシンおよびエンテロトキシン特異的 IgE 抗体の陽性率（抄録）

滝下照章、岡野光博、山下安彦、渡辺 徹、小川晃弘、西崎和則（岡山大）

アトピー性皮膚炎患者の皮膚病変から高率に *S. aureus* が検出され、菌が産生するエンテロトキシンが炎症を助長したり、エンテロトキシン特異的 IgE 抗体を介した病態の増悪が考えられている。一方本菌は鼻腔常在菌であり、アレルギー性鼻炎の病態との関与が疑われる。今回アレルギー性鼻炎患者にみられたエンテロトキシン特異的 IgE 抗体の陽性率を検討し、臨床的特徴を解析した。

アレルギー性鼻炎患者におけるエンテロトキシン特異的 IgE 抗体陽性率は、患者群で 25% と健常者群 6.3% と比べ有意に高値を示し、さらに患者群の中では、エンテロトキシン B 特異的 IgE 抗体の陽性率が高かった。エンテロトキシン感作患者群において、症状の重症度が高い傾向は認めなかったが、重複感作数と血清総 IgE 量は陽性群のほうが有意に高値を示した。現在我々は、アレルギー性鼻炎患者での鼻腔内エンテロトキシン抗原陽性率を検討中あり、その結果も併せて報告する。